

---

---

## 編集後記

昨今、電車の中など時間を持て余すときには、スマートフォンやゲーム機を覗き込んでいる人がとても多いことに気が付きます。心配なのは、小中学生です。小さい頃からこうした電子機器に夢中になる、すぐ傍に相手がいるのにLINEなどの通信に頼る、しかも短文を扱う、こうした習慣が、彼らの脳の正常な発達に影響を与えないか、ということです。ゲームに夢中になって、勉強時間が減ってしまって成績が落ちる、という調査はあるようです。さらに、道順などもスマホのGPS機能に頼る、買い物も忘れてもコンビニが24時間利用できるなど、全体を把握して先まで考えた計画を立てなくても、生活できるようになりました。大学受験の勉強の計画も、予備校から与えられているかも知れませんが、研究室の学生が研究の計画を立てても、無謀な場合が見受けられます。

頭の中に100～1,000億個ある脳細胞の数は人によって余り変わらないでしょうが、それらを繋ぐ神経線維は、反復練習などで随分増やすことができるそうです。上の電子機器にのめり込むと、そうした脳への刺激がある部分に偏ってしまい、正常な発達ができないのではないかと危惧されます。ただ、現在の計測技術では、生きたまま、神経

線維の数まで数えることはできませんので、とても評価の難しい課題です。

紙と鉛筆、紙に印刷された教科書を用いた学習は、電子機器を扱うよりも、様々な部位を刺激する面では、人の脳の発達には向いているのでしょう。さらに、自然に目を向ければ、視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚の全ての感覚と未来への創造力を総動員して、様々な刺激を受けることができます。電子機器に夢中になる最大の欠点は、相手が人工的で刹那的なものに限定され、こうした自然の深遠な不思議に触れる時間が少なくなっていること、このことだけは正しいと言えると思います。

これらはいずれも、現代人の宿命とも言うべき大きな課題です。本学会も、「医療のための研究や教育」の観点から、生命の不思議に深く関わるができるならば、将来世代の育成にも繋がり、大変幸いと思います。

金井 浩

東北大学大学院工学研究科電子工学専攻  
／医工学研究科医工学専攻

---

---

超音波医学

Japanese Journal of

Medical Ultrasonics

第45巻 第3号 (通巻第305号)

© The Japan Society of Ultrasonics in Medicine

—禁転載—

本体価格 2,000円+税 (本誌購読料は会費に含まれます。)

平成30年5月15日発行

編集者 公益社団法人日本超音波医学会編集委員会 委員長 金井 浩

発行者 公益社団法人日本超音波医学会 理事長 工藤 正俊

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町2-23-1

お茶の水センタービル6階

TEL 03-6380-3711

FAX 03-5297-3744

印刷所 大村印刷株式会社